

建築趣味の普及

住宅を建築するに當つて世間一般の人はともすると面積の廣狭や工費の多寡或は建物の大小によつて住宅の優劣適否を定める傾向があるが之れは大なる誤りである之れが即ち世人が建築といふ事に對して智識と趣味とが普及されてゐない證據である。

現今では専門家其の他の人々が建築趣味の普及を呼び或は雜誌に新聞に住宅に關する議論が行はれて世人も稍々此れに心を向ける様になつて來たが自分は尙一層此の問題に於ける研究實行を望むものである。

住宅と婦人

住宅と婦人とは殊に密接な關係を有してゐるもので米國のバンガロー、マガジンといふ雜誌社の主唱によつて最近我が國で大阪婦人博覽會の開催された時に住宅の間取平面圖を募集せしが如き又嘗て或る婦人雜誌に日本家屋と洋館と何れを好むかと云ふ問題を提出して之を廣く募集したが如き之を證明するものであらう。

元來男子は外にありて働き又婦人の大部分は家庭にありて働くものであるから住宅の優劣適否の影響を痛切に感ずるのは婦人である臺所の構造採光の調節隣家との關係是等は主婦の研究の好資料であつて大工の手に依らず又専門家を俟たず時には自ら意見を吐き時には見格好等鉛筆を手にして示すも宜からう。斯くすれば棚の取附具合から臺所の位置等は男子も及ばない名案が浮ばないと限らない之れにしても我が國の婦人の建築に對する趣味がまだ不足であると思ふ要するに建築趣味の普及は婦人に取うては刻下の急務であつて縱令興味のない事でも努めて其の改善研究を怠らなかつたならば次第に興が乗つて自然其の智識を増すものである従つて他人の建築を批評することも新に設計されたものに對しても自己の理想を當て嵌めて見ることも出來時には自から圖面や模型を作つて見たる内に知らず識らず建築趣味を涵養することが出来るものである。

理想の住宅とは如何なる住宅であるか之を略言すれば即ち住み心地のよい家